



## 地球の珊瑚

### 心あったかニュース

オーストラリアのグレートバリアリーフで、サンゴの年間成長が、大幅に増加しているそうです。オーストラリアの海洋科学研究所が行った調査で、サンゴ礁の北部と中央部のサンゴの被覆レベルが過去36年間で最高レベルになってきているということです。2016年にエルニーニョで、海水の温度が3度急速に上昇しました。突然の温暖化はサンゴを驚かせ、その過程で共生藻類を排出し、現在は白化として知られています。ただし、海水温が安定すると、これは逆転します。サンゴは5億年前から何らかの形で存在しており、この自然のプロセスは、人間が地球上の生命を知っている限りまでさかのぼる可能性があります。中央のサンゴ礁では、2012年と2016年に見られた減少は、自然現象、特に2012年のサイクロンヤシと2016年のエルニーニョによるものでした。しかし、それ以来、成長は目覚ましく、2021年にはハードコーラルの被覆率が33%に増加し、

この地域で最も高いことが示されました。過去2年間で、ハードコーラルの被覆も4つの個々のサンゴ礁でのみ減少しましたが、調査された他のほとんどのサンゴ礁は顕著な改善を示しました。チチュラル（ニューズより）

一方、日本では、今年の夏、沖縄周辺の海は台風が来る回数が少なかつたため、海水が混ざりづらく記録的に高い水温となり、環境省がおこなった、沖縄の石垣島と西表島の間にも広がる日本最大のサンゴ礁「石西礁湖」の白化状況では、去年と比べ完全に白化していたり、白化により死んでしまったサンゴも大幅に増加しました。ということ。テレビ朝日より）沖縄のあるサンゴ礁では、ストレスに強いサンゴが増加しているという研究もあるらしく、自然の適応力はすごいとも言えますが、サンゴの環境をオーストラリアのように、落ち着くといいなという思いで、見守っていく必要があると思います。

### 中学生が選ぶ『将来就きたい仕事』ランキングより

女子の1位が「医者」、男子の1位が

「会社員」という結果が出ました。いずれも担

い手が不足している職業であり、困っているなら助けたい」と自然に考える子どもが増えているということかも知れません。子どもは子どもなりに、現代社会を観察し、自分のあるべき姿を探っているということなのか。学習塾「知窓学舎塾長、萩邦彦氏感じる 今どきの子どもの特徴」は、みんなにとって利益のあることを大切にしている。だそうです。ヤフーニュース、ダイアモンドオンラインより）

#### 編集後記

変化に対応する、環境そして、子供たちの、今必要なことをやろうとする強い生きる力を信じて、あきらめない姿勢の大人でありたいなと思えました。同時に希望ももっていいなと思えました。